

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 2 区分
 【発行日】平成30年6月28日 (2018.6.28)

【公表番号】特表2016-534406(P2016-534406A)
 【公表日】平成28年11月4日 (2016.11.4)
 【年通号数】公開・登録公報2016-062
 【出願番号】特願2016-538484(P2016-538484)
 【国際特許分類】

G 1 0 G 1/00 (2006.01)

G 1 0 H 1/00 (2006.01)

G 0 9 B 15/00 (2006.01)

【 F I 】

G 1 0 G 1/00

G 1 0 H 1/00 Z

G 0 9 B 15/00 Z

【誤訳訂正書】

【提出日】平成30年5月7日 (2018.5.7)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

提供されたテスト音源で音源特性を演奏時間全体にわたって定量化して獲得したテスト演奏情報と、検証された複数の音源で前記演奏時間全体にわたって前記音源特性と同じ種類の音源特性を抽出して、前記複数の音源から抽出された音源特性の中心傾向を算出し、前記中心傾向に対する散布度を算出する統計分析をして得た基準演奏情報とを比較し、前記演奏時間で前記基準演奏情報の音源特性に対する前記テスト演奏情報の音源特性の差異を示す独創性指数を算出する段階を含む音源評価方法。

【請求項 2】

前記音源特性は、音の高さ、拍子、強弱程度、または奏法情報を 1 つ以上含む、請求項 1 に記載の音源評価方法。

【請求項 3】

前記中心傾向は、前記音源特性の算術平均で算出され、前記散布度は、前記音源特性の標準偏差で算出されるものである、請求項 1 に記載の音源評価方法。

【請求項 4】

前記独創性指数は、下記数式 1 によって算出される、請求項 1 に記載の音源評価方法：

[数式 1]

$$R(t)=abs(b-a)$$

数式 1 で、 $R(t)$ は、演奏時間 t での独創性指数であり、 $abs()$ は、 $()$ 内の数値に対する各元素の絶対値を算出する関数であり、 b は、前記検証された複数の音源から抽出された音源特性の中心傾向の値であり、 a は、前記テスト音源で算出された音源特性の値である。

【請求項 5】

前記独創性指数は、下記数式 2 によって算出される、請求項 1 に記載の音源評価方法：

[数式 2]

$$R(t) = \text{abs}(\text{div}(b - a, s))$$

数式 2 で、 $R(t)$ は、演奏時間 t での独創性指数であり、 $\text{abs}(\quad)$ は、 (\quad) 内の数値に対する各元素の絶対値を算出する関数であり、 b は、前記複数の音源から抽出された音源特性の中心傾向の値であり、 s は、前記検証された複数の音源で抽出された音源特性の中心傾向と関連した散布度の値であり、 a は、前記テスト音源で算出された音源特性の値であり、 $\text{div}(X, Y)$ は、 X ベクトルの X_n 元素と Y ベクトルの Y_n 元素を元素別に除算する演算子である。

【請求項 6】

テスト音源で演奏時間全体にわたって抽出された音源特性を利用して前記テスト音源の独創性を評価するものであって、

検証された複数の音源で前記演奏時間全体にわたって音源特性を統計分析して算出した基準演奏情報と、前記テスト音源の音源特性との差異程度を独創性指数で算出するマッチング部と、

前記基準演奏情報を生成する基準分析部を含み、

前記基準分析部は、検証された複数の音源で前記演奏時間全体にわたって音源特性を定量的に算出する抽出モジュールと、各前記音源特性に基づいて中心傾向を算出する第 1 算出モジュールと、

複数の前記音源で算出された各音源特性から前記中心傾向と関連した散布度を抽出する第 2 算出モジュールを含む

音源の評価装置。

【請求項 7】

前記テスト音源から前記演奏時間全体にわたって前記音源特性を抽出し、抽出された前記音源特性を定量化してテスト音源情報を生成した後、前記マッチング部の要請に応じて前記テスト音源情報を提供する認識部を含む、請求項 6 に記載の音源の評価装置。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0011

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0011】

上記課題を解決するために、本発明の一実施形態による音源評価方法は、提供されたテスト音源で音源特性を演奏時間全体にわたって定量化して獲得したテスト演奏情報と、検証された複数の音源で前記演奏時間全体にわたって前記音源特性と同じ種類の音源特性を抽出して統計分析した基準演奏情報とを比較し、特定の演奏時間で前記基準演奏情報の音源特性に対する前記テスト演奏情報の音源特性の差異を示す独創性指数を算出する。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0015

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0015】

なお、複数の演奏音源から抽出される音源特性を演奏時間全体にわたって定量化し、各演奏時間で前記音源特性を統計分析した基準演奏情報を得ることを特徴とする演奏情報分析方法とそれによって算出された基準演奏情報を含んでいる記録媒体が提示される。

【誤訳訂正 4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0016

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0016】

なお、テスト音源で演奏時間全体にわたって抽出された音源特性を利用してテスト音源の独創性を評価するものであって、検証された複数の音源で前記演奏時間全体にわたって音源特性を統計分析して算出した基準演奏情報と、テスト音源の音源特性との差異程度を独創性指数で算出するマッチング部を含む音源の評価装置が提示される。

【誤訳訂正5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0017

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0017】

ここで、音源の評価装置は、テスト音源で演奏時間全体にわたって音源特性を抽出し、抽出された音源特性を定量化してテスト音源情報を生成した後、マッチング部の要請に応じてテスト音源情報を提供する認識部を含むことができる。

【誤訳訂正6】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0018

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0018】

ひいては、音源の評価装置は、基準演奏情報を生成する基準分析部を含むことができ、基準分析部は、検証された複数の音源で演奏時間全体にわたって音源特性を定量的に算出する抽出モジュールと、各音源特性に基づいて中心傾向を算出する第1算出モジュールとを含むことができ、基準分析部は、複数の音源から算出した各音源特性から中心傾向と関連した散布度を抽出する第2算出モジュールを含むことができる。

【誤訳訂正7】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0036

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0036】

この際、テスト音源を通じて生成されるテスト音源情報は、演奏時間全体にわたって順次に抽出される。ここで、演奏時間は、秒単位の時間流れを示す単位であるか、当該音楽の楽譜上で小節単位の流れを示す単位であることができる。

【誤訳訂正8】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0044

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0044】

抽出モジュールは、検証された音源で演奏時間全体にわたって音源特性を定量的に算出するものである。抽出モジュールの構成及び作用は、事実上、前述した認識部の構成及び作用と同一である。したがって、抽出モジュールと認識部は、相互代替されてもよい。

【誤訳訂正9】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0047

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【 0 0 4 7 】

第 1 算出モジュールと第 2 算出モジュールは、複数の音源で得られた音源特性を統計分析して、基準演奏情報を生成する手段である。

ここで、演奏時間全体にわたって毎度音源特性が抽出されるので、これを加工した基準演奏情報が演奏時間全体にわたって複数個で算出される。

【 誤 訳 訂 正 1 0 】

【 訂 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 訂 正 対 象 項 目 名 】 0 0 8 2

【 訂 正 方 法 】 変 更

【 訂 正 の 内 容 】

【 0 0 8 2 】

マッチング部は、テスト音源の演奏時間全体にわたって独創性指数をリアルタイムで処理することができる。ストリーム処理方式によって算出した独創性指数は、演奏する過程に演奏者にリアルタイムで提供されることによって、曲の練習が行われる現場でリアルタイムで指導教育を受ける効果が現われることができる。

【 誤 訳 訂 正 1 1 】

【 訂 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 訂 正 対 象 項 目 名 】 0 0 9 1

【 訂 正 方 法 】 変 更

【 訂 正 の 内 容 】

【 0 0 9 1 】

イメージで独創性指数を表出する 1 つの例示として、基準音源情報の中心傾向と散布度を同心円上に直径を異にして表示し、テスト演奏情報の大きさによって基準音源情報から外れた位置に表出させて、独創性指数が直感的に認識されることができる。または、演奏時間全体にわたって基準演奏情報、テスト演奏情報、及び独創性指数が 1 つのグラフの中に表示されてもよい。その他、演奏者に容易に認識され得るように多様なイメージ表現方法が使用されることができる。

【 誤 訳 訂 正 1 2 】

【 訂 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 訂 正 対 象 項 目 名 】 0 0 9 8

【 訂 正 方 法 】 変 更

【 訂 正 の 内 容 】

【 0 0 9 8 】

まず、演奏情報分析方法は、演奏音源から抽出される音源特性を演奏時間全体にわたって定量化し、複数の演奏情報で得られる音源特性を統計分析して基準演奏情報を生成するものである。